

5

研究業績

当院主催研修会

職員対象研修会 [2023年4月～2024年3月]

開催月日	対象者	参加人数	テーマ	担当者	
				主催	講師
4月3日	新入職員	31	抗菌薬に関する取り組みの案内	薬剤部	佐伯勝成
4月3日	新入職員	31	1. COVID-19発生動向、今後の対応 2. 医療関連感染と感染成立 3. 標準予防策	感染対策室	坪根淑恵
4月4日	新入看護職員	21	感染管理研修	感染対策室	坪根淑恵
6月8日～6月15日	全職員	460	転倒・転落予防対策、患者誤認防止	医療安全管理室	吉田智子
6月19日～6月23日	全職員	445	新型コロナウイルス感染症 5類感染症変更後の対応 Q&A	感染対策室	坪根淑恵

論文・著書

[2023年1月～2023年12月]

発行・発表年月	雑誌名・著書名	ページ範囲	論文・記事タイトル	著者 ※当院職員のみ掲載
2023年3月	リハビリテーション薬剤 実践マニュアル	205-208	抗精神病薬、抗てんかん薬、アルツ ハイマー治療薬は摂食嚥下障害の原 因となり得る	竹村有美
2023年3月	リハビリテーション薬剤 実践マニュアル	310-311	亜鉛補充は、放射線および化学放射 線療法による口腔粘膜炎に有効な例 もある	竹村有美
2023年3月	リハビリテーション薬剤 実践マニュアル	334-337	覚醒不良にフォーカスした薬剤調整	竹村有美
2023年5月	山口県 内科医師会 第22号	20-30	最新医学 最近のトピックス 貧血 治療 up-date	縄田涼平
2023年6月	臨床皮膚科 第77巻 第7号	538-544	関節リウマチ患者の顔面、下腿に著 明な腫脹をきたしたメトトレキサート 関連リンパ増殖性疾患の1例	赤松洋子 瀬戸口美保子 杉山暁子 田中邦剛
2023年9月	皮膚科の臨床 第65巻 第9号	1397-1401	メトトレキサート単独投与が著効し たサルコイドーシスの1例	赤松洋子

学会・研修会

[2023年1月～2023年12月]

開催日 (開始)	開催日 (終了)	学会、研修会名	開催地	発表演題	発表者、演者、共同研究者等 ※当院職員のみ掲載
2月10日	2月10日	第12回 下関医療センター 薬業連携研修会	山口県 下関市	心不全治療薬について ～冠動脈疾患に使用する薬剤～	竹村有美
2月12日	2月12日	令和4年度 栄養士研究発表会	山口県 山口市	おいしく安全で栄養のある嚥下調 整食提供を目指した食形態改良の 取り組み	山口優里奈 大屋 舞 大庭佳恵 小田真理子 飯田 武 (共同演者)
2月15日	2月16日	第39回 日本臨床栄養代謝 学会 学術集会	神奈川県 横浜市	NMESを併用した咽頭挙上訓練 により嚥下機能の改善が得られた 胸部食道癌術後の1例	藤井雄一 (発表者)、 飯田 武 他
3月 2日	3月 2日	第1回 山口市心不全療養指 導士の会	山口県 山口市 (Web)	心不全治療に関わる多職種連携の 重要性	吉国健司
3月28日	3月28日	CLL 治療セミナー2023 in 山口	山口県 山口市	再発・難治性慢性リンパ性白血病 におけるカルケンスの役割	縄田涼平
4月 1日	4月 1日	令和4年度 薬局ビジョン実 現に向けた薬剤師のかかり つけ機能強化事業 (令和4年度薬剤師の資質向 上等に関する研修事業)	東京都	患者等に寄り添った薬物療法支援 と薬剤師 (心不全) chapter2 【実践編】	吉国健司
4月26日	4月 2日	MM Expert Seminar in 中国	Web	Bor 不耐・Len 難治性のBJ型多 発性骨髄腫にDKdを導入し、速 やかにAuto-SCTが施行できた 症例	縄田涼平
5月11日	5月13日	第66回 日本糖尿病学会 年次学術集会	鹿児島県 鹿児島市	週1回GLP-1受容体作動薬 (セマ グルチドVSデュラグルチド) を選択 する際、患者が充当するポイント	黒瀬実樹 阿座上操 野田 薫
5月21日	5月21日	第79回 山口県診療放射線 技師会 総会・学術大会	山口県 下関市	当院での検査遅延改善に対する取 り組み	津田幸太郎
6月 1日	6月 4日	第122回 日本皮膚科学会総会	神奈川県 横浜市	A case of non-bullous pemphigoid mimicking as intractable eczematous eruption	池川法子 赤松洋子
6月 8日	6月 8日	関薬会 第2回生涯学習研修会	山口県 下関市	感染制御の基本	佐伯勝成
6月 9日	6月 9日	北見薬剤師会学術講演会	北海道 北見市	心不全治療に関わる多職種連携の 重要性 ～心不全チーム薬剤師の視点～	吉国健司
6月15日	6月15日	山口栄養サポートネットワー ク臨床栄養勉強会 知らな きゃソン塾	山口県 下関市 (Web)	心不全患者の栄養とポリファーマ について	竹村有美
6月23日	6月23日	第25回 日本医療マネジメ ント学会 学術総会	神奈川県 横浜市	薬剤助手義務の効率化に対する取 り組み	矢川結香 吉国健司
7月 4日	7月 4日	心不全多職種連携スキル アップWebinar2023	岩手県 盛岡市 (Web)	心不全診療における多職種連携 ～心不全・心リハ薬剤師の視点～	吉国健司
7月16日	7月16日	第29回 日本心臓リハビリ テーション学術集会	神奈川県 横浜市	血圧管理における心臓リハビリ テーションの有効活用術	吉国健司

開催日 (開始)	開催日 (終了)	学会、研修会名	開催地	発表演題	発表者、演者、共同研究者等 ※当院職員のみ掲載
9月 3日	9月 3日	日本皮膚科学会 第238回 熊本地方会熊本大学皮膚科・ 形成外科教室創立100周年 記念地方会	熊本県 熊本市	皮膚腫瘍切除時の局所麻酔量	赤松洋子 池川法子 森永俊彦
9月 5日	9月 5日	山口県薬剤師会 地域医療・ 保険委員会	山口県 山口市 (Web)	地域連携とトレーシングレポート の意義	佐伯勝成
9月 9日	9月 9日	第27回 PEG・在宅医療学 会学術集会	岐阜県 岐阜市	PEGにより胃小腸内血管を損傷 し腹腔内出血を繰り返した一例	飯田武 松本怜子 佐藤哲也 西村 拓
9月 9日	9月10日	日本皮膚科学会 第406回 福岡地方会	福岡県 北九州市	RIGENERAによる真皮移植を全 層植皮術に併用して良好な経過を 辿った菓子難治性皮膚潰瘍の1例	赤松洋子
9月23日	9月23日	第15回 日本臨床栄養代謝 学会中国四国支部学術集会	Web	長期腸瘻栄養管理中に銅欠乏をき たした一例	山口優里奈 飯田 武 藤井雄一 池畑紗紀 竹村有美 中本真由美 長谷川朋子 清木雅一 前原由起子 小林菜々子 大庭佳恵 三輪真紀子 山下智省 (共同演者)
10月17日	10月17日	北海道医療大学 将来ビジョ ン講座	北海道 石狩市 (Web)	心不全パンデミックへの“心” 構え ～心臓リハビリテーションと地域 連携～	吉国健司
10月20日	10月20日	令和5年度 第8回 生涯学 習研修会 薬業連携研修会	山口県 下関市	当院におけるABVD療法の実際	山田健一
10月20日	10月20日	令和5年度 第9回 生涯学 習研修会 薬業連携研修会	山口県 下関市	造血器腫瘍に対する化学療法につ いて	杉山暁子
10月21日	10月21日	第32回 山口県西部医学会	山口県下 関市	高齢で初めて診断が明らかになっ た先天性血友病Aの一例	古賀加奈子 杉山暁子 加藤 彰
10月27日	10月28日	日本糖尿病学会 中国四国地 方会 第61回 総会	島根県 松江市	クリニックにおけるDexcomG6 導入経験から得た多少の知見	岸本玲子
10月27日	10月28日	日本糖尿病学会 中国四国地 方会 第62回 総会	島根県 松江市	高度肥満を伴う2型糖尿病への持 続性BIP/GLP-1受容体作動薬の 有用性と課題	野田 薫 阿座上操 黒瀬実樹
11月 4日	11月 4日	第33回 日本医療薬学会年会	宮城県 仙台市	心臓リハビリテーション指導士の 視点から見る心不全	吉国健司
11月17日	11月17日	2023年度 下関西高等学校 キャリアセミナー	山口県 下関市	薬剤師の業務	大西利彦
11月22日	11月22日	中四国医療安全WEBセミ ナー	Web	当院での肝炎ウイルス検査陽性者 の拾い上げ	加藤 彰
11月28日	11月28日	第2回 T-cell lymphoma forum in 山口	山口県 山口市	早期に再発したPTCL, nosに対 しTucidinostatを使用した一例	杉山暁子
11月30日	11月30日	第5回 Yamaguchi Liver Active Generation Meeting	山口県 宇部市	当院での食道静脈癌患者の傾向/ 見逃し注意！静脈瘤と消化管癌合 併症例	松田崇史
12月 8日	12月 9日	第8回 JCHO地域医療総 合医学会	三重県	SNSを利用した院内研修の取り 組み	戸倉正光 (久保田将弘 高菅将希 福本信幸 仁田裕紀 市岡美恭 石本雅和 黒木 亮 渡邊孝幸)

6

病院広報誌

病院広報誌

馬関医心〔2023年新年号～秋号〕

ホームページにてPDF ファイルを公開しています。⇒ shimonoseki.jcho.go.jp/ 病院広報誌 /

馬関医心 QRコード



2023年新年号



2023年春号



2023年夏号



2023年秋号



レインボウ通信 [2023年4月号～2024年3月号]

▶2023年4月号



JCHO下関医療センター ニュースレター

レインボウ通信

令和5年4月号

院長からのメッセージ「スーパースプレームの予感」



アリゾナ・カリフォルニア州デスレービーに、およそ10年に一変換したスーパースプレーム。不気味で恐怖感を感じたこの出来事から、地域医療構想の状況を本欄にて論じた。2021年4月のことであった。

当時、下関における地域医療構想の議論は停滞していた。時はコロナ禍の真っ只中、地域医療構想は引け合い進む気配はなかった。それでも人口減少と少子高齢化は容赦なく進む、目の前の危機に打ちしつ、未来を懸念。いつか花火が炸裂する怖ろしさを感じて、今は乾いた大地に水をやわらびつづけた。

そんな想いを言葉に棄せた。(<https://shimonoseki.jcho.go.jp/vajiro2021/>)

経緯を振り返ってみよう。

この下関の医療は、急性期・急性期医療と救急医療は、主に4病院（市立市民病院、民間西関センター、公立済生会総合病院、下関西関センター）が担い、連携して担ってきたが、その非効率性が顕著視されて。将来のためには、抜本的な改革が必要であることは明らかであった。

これを機として、2017年に下関西関地域医療構想調整会議が中間報告をまとめた。要約すると、「4病院を段階的に、十分な規模と機能をもつ基幹病院数施設に中継・集約することを旨とする」というものであった。

しかし、このころ議論は総論賛成・各論反対の長期停滞フェーズに入ると。そうこうしているうちに、2020年にCOVID19パンデミックが発生、議論はあっという間にペースダウンした。

転機が訪れたのは2022年4月、重点支援地域に下関西関圏が指定されたのである。

重点支援地域とは、地域医療構想における複数医療機関の再編統合について、国の技術的・財政的支援をする地域を指定するという制度。これを契機に議論が再び加速した。そして、およそ一年後、4病院の関与で一定の合意に至った。

その合意内容が調整会議で承認され、2023年3月に第2次中間報告として発表された。

以下に要約。

- 現在の4病院体制を3病院体制に再編・統合することを検討する。
- まず、病院間で最も長い時期が短く、立地が近接している下関西関センターと市立市民病院との統合の可能性を検討する。
- 統合後の下関西関圏の急性期医療体制を3病院で担いつづ、さらなる段階的な再編の必要性・可能性について、今後協議を続ける。

(<https://www.shimonoseki.lg.jp/uploaded/attachment/65552.pdf>)

これらがステークホルダー達からいくつも賛意を得出するだろうが、はっとしている。今の体制が続け続けられるリスクが高いこと。何と手をつけなければ、未来に大きな禍根を残す。最も大切なことは、この下関に自分たちハイレベルの議論を定常的に病院での対峙で進め世に発信することである。利害を超えて。

スーパースプレームを感じる予感がする。季節の下で思いを過ごし、今や芽吹くこととしている草花たちを大切に育てながら関心を待つ。2023年春はそうである。



令和5年度 主な新入職員のご紹介

令和5年4月に新しく採用となった
主な職員をご紹介します。
ご指導ご鞭撻を、よろしくお願い
申し上げます。

松原 大作 (事務部長)	神崎 悠慈 (事務部長)
小松 寛都 (放射線科医師)	加藤 幹元 (脳神経内科部長)
佐藤 哲也 (消化器外科医師)	小野 建 (放射線科部長)
内田 智之 (循環器内科医師)	長澤 仁烈 (循環器内科医師)
斎藤 大嗣 (脳神経外科医師)	山崎 朗 総 (総合診療科医師)
川野 紀 (臨床研修医)	出来田 祐治 (脳神経外科医師)
古賀 加奈子 (臨床研修医)	田村 尚佑 (臨床研修医)
木下 智貴 (臨床研修医)	吉原 祐馬 (臨床研修医)
遠 大純 (臨床研修医)	舟越 恵太 (臨床研修医)
石橋 美々子 (臨床研修医)	
保田 光輝 (臨床研修医)	

令和5年度 主な退職者のご報告

令和5年3月をもって下記の職員が
退職いたしました。
職中は大変お世話になりましたこと
を厚く御礼申し上げます。

神崎 悠慈 (事務部長)	85.3%
加藤 幹元 (脳神経内科部長)	16.1%
小野 建 (放射線科部長)	12.6%
長澤 仁烈 (循環器内科医師)	96.0%
山崎 朗 総 (総合診療科医師)	22件
出来田 祐治 (脳神経外科医師)	入院 700件
田村 尚佑 (臨床研修医)	●老人保健施設 入所者延数(利用明) 1,621人 (80.4%)
吉原 祐馬 (臨床研修医)	通所利用者延数(利用明) 330人 (46.9%)
舟越 恵太 (臨床研修医)	●訪問看護ステーション訪問件数 320件
	●健康管理中心受診患者数 2,194人
	●奇兵隊ネット利用件数 16件

病院統計 令和5年2月

●紹介者 85.3%

●志望介介 16.1%

●平均在院日数 12.6日

●在宅復帰率 96.0%

●MSW相談患者件数 (外来) 22件

(入院) 700件

●老人保健施設 入所者延数(利用明) 1,621人 (80.4%)

通所利用者延数(利用明) 330人 (46.9%)

●訪問看護ステーション訪問件数 320件

●健康管理中心受診患者数 2,194人

●奇兵隊ネット利用件数 16件

●総合診療 85.3%

●救急 16.1%

●平均在院日数 12.6日

●在宅復帰率 96.0%

●MSW相談患者件数 (外来) 22件

(入院) 700件

●老人保健施設 入所者延数(利用明) 1,621人 (80.4%)

通所利用者延数(利用明) 330人 (46.9%)

●訪問看護ステーション訪問件数 320件

●健康管理中心受診患者数 2,194人

●奇兵隊ネット利用件数 16件

令和5年度 主な新入職員のご紹介

令和5年4月に新しく採用となった
主な職員をご紹介します。
ご指導ご鞭撻を、よろしくお願い
申し上げます。

松原 大作 (事務部長)	神崎 悠慈 (事務部長)
小松 寛都 (放射線科医師)	加藤 幹元 (脳神経内科部長)
佐藤 哲也 (消化器外科医師)	小野 建 (放射線科部長)
内田 智之 (循環器内科医師)	長澤 仁烈 (循環器内科医師)
斎藤 大嗣 (脳神経外科医師)	山崎 朗 総 (総合診療科医師)
川野 紀 (臨床研修医)	出来田 祐治 (脳神経外科医師)
古賀 加奈子 (臨床研修医)	田村 尚佑 (臨床研修医)
木下 智貴 (臨床研修医)	吉原 祐馬 (臨床研修医)
遠 大純 (臨床研修医)	舟越 恵太 (臨床研修医)
石橋 美々子 (臨床研修医)	
保田 光輝 (臨床研修医)	

令和5年度 主な退職者のご報告

令和5年3月をもって下記の職員が
退職いたしました。
職中は大変お世話になりましたこと
を厚く御礼申し上げます。

神崎 悠慈 (事務部長)	85.3%
加藤 幹元 (脳神経内科部長)	16.1%
小野 建 (放射線科部長)	12.6%
長澤 仁烈 (循環器内科医師)	96.0%
山崎 朗 総 (総合診療科医師)	22件
出来田 祐治 (脳神経外科医師)	入院 700件
田村 尚佑 (臨床研修医)	●老人保健施設 入所者延数(利用明) 1,621人 (80.4%)
吉原 祐馬 (臨床研修医)	通所利用者延数(利用明) 330人 (46.9%)
舟越 恵太 (臨床研修医)	●訪問看護ステーション訪問件数 320件
	●健康管理中心受診患者数 2,194人
	●奇兵隊ネット利用件数 16件

令和5年度 主な新入職員のご紹介

令和5年4月に新しく採用となった
主な職員をご紹介します。
ご指導ご鞭撻を、よろしくお願い
申し上げます。

松原 大作 (事務部長)	神崎 悠慈 (事務部長)
小松 寛都 (放射線科医師)	加藤 幹元 (脳神経内科部長)
佐藤 哲也 (消化器外科医師)	小野 建 (放射線科部長)
内田 智之 (循環器内科医師)	長澤 仁烈 (循環器内科医師)
斎藤 大嗣 (脳神経外科医師)	山崎 朗 総 (総合診療科医師)
川野 紀 (臨床研修医)	出来田 祐治 (脳神経外科医師)
古賀 加奈子 (臨床研修医)	田村 尚佑 (臨床研修医)
木下 智貴 (臨床研修医)	吉原 祐馬 (臨床研修医)
遠 大純 (臨床研修医)	舟越 恵太 (臨床研修医)
石橋 美々子 (臨床研修医)	
保田 光輝 (臨床研修医)	

令和5年度 主な退職者のご報告

令和5年3月をもって下記の職員が
退職いたしました。
職中は大変お世話になりましたこと
を厚く御礼申し上げます。

神崎 悠慈 (事務部長)	85.3%
加藤 幹元 (脳神経内科部長)	16.1%
小野 建 (放射線科部長)	12.6%
長澤 仁烈 (循環器内科医師)	96.0%
山崎 朗 総 (総合診療科医師)	22件
出来田 祐治 (脳神経外科医師)	入院 700件
田村 尚佑 (臨床研修医)	●老人保健施設 入所者延数(利用明) 1,621人 (80.4%)
吉原 祐馬 (臨床研修医)	通所利用者延数(利用明) 330人 (46.9%)
舟越 恵太 (臨床研修医)	●訪問看護ステーション訪問件数 320件
	●健康管理中心受診患者数 2,194人
	●奇兵隊ネット利用件数 16件

令和5年度 主な新入職員のご紹介

令和5年4月に新しく採用となった
主な職員をご紹介します。
ご指導ご鞭撻を、よろしくお願い
申し上げます。

松原 大作 (事務部長)	神崎 悠慈 (事務部長)
小松 寛都 (放射線科医師)	加藤 幹元 (脳神経内科部長)
佐藤 哲也 (消化器外科医師)	小野 建 (放射線科部長)
内田 智之 (循環器内科医師)	長澤 仁烈 (循環器内科医師)
斎藤 大嗣 (脳神経外科医師)	山崎 朗 総 (総合診療科医師)
川野 紀 (臨床研修医)	出来田 祐治 (脳神経外科医師)
古賀 加奈子 (臨床研修医)	田村 尚佑 (臨床研修医)
木下 智貴 (臨床研修医)	吉原 祐馬 (臨床研修医)
遠 大純 (臨床研修医)	舟越 恵太 (臨床研修医)
石橋 美々子 (臨床研修医)	
保田 光輝 (臨床研修医)	

令和5年度 主な退職者のご報告

令和5年3月をもって下記の職員が
退職いたしました。
職中は大変お世話になりましたこと
を厚く御礼申し上げます。

神崎 悠慈 (事務部長)	85.3%
加藤 幹元 (脳神経内科部長)	16.1%
小野 建 (放射線科部長)	12.6%
長澤 仁烈 (循環器内科医師)	96.0%
山崎 朗 総 (総合診療科医師)	22件
出来田 祐治 (脳神経外科医師)	入院 700件
田村 尚佑 (臨床研修医)	●老人保健施設 入所者延数(利用明) 1,621人 (80.4%)
吉	

▶2023年5月号

JCHO下関医療センター ニュースレター

レインボウ通信

令和5年5月号

泌尿器科のご紹介

当院では泌尿器科常勤医2人にて日々の診療に当たっております。泌尿器科
悪性腫瘍、尿路結石、尿路感染症、排尿障害、慢性腎臓病（CKD）などの診療
を行っています。

悪性腫瘍に対しては診断から治療まで全て対応しております。手術療法（腹
腔鏡・内視鏡・開腹手術）や化学療法も行えます。また尿路結石には体外衝撃
波結石破砕術（ESWL）・内視鏡手術（TUL）のいずれも行っております。特に
腎臓結石や上部尿管結石に対して軟性尿管鏡とレーザーを使用した経尿道的尿
管碎石術（ITUL）も積極的に行っています。尿路結石に関しての外科的治療は全
て当施設にて完結することが可能となっております。

慢性腎臓病に関しては看護外来なども行っており、生活指導および腎代替療法
選択を指導しています。腎代替療法として血液透析および腹膜透析の導入から、
維持透析まで行っております。血液透析はオンラインHDFも充実しており、周
術期や循環動態の不安定な患者に対しては持続血液透析過透析療法（CHDF）も行っ
ています。腹膜透析は訪問看護とも連携し自宅で安心して行えるようにサポー
トしております。

頻尿、尿漏れなど排尿トラブルに関して適切な診断のうえ投薬や手術療法
も含めて治療を行っています。患者さんのニーズに答えつづ質の高い医療を目
指し、今後とも臨機応変に行っていく所存です。

（文責 泌尿器科 原 宏二）

院長からのメッセージ

戦争遂行において医療戦は重要な。敵対すべき周囲の対処を語ったことに、基本な教育を受けた例を過去の歴史から見つけるのに困難がある。急速な人口減少、少子高齢化によって社会が随分とつらくなっている日本は、医療従事者といえる人も少ない。戦後復興に続く高度成長期は、進歩的医療から戦線を拡大する時代であった。その過程で際立ってならわね、復讐を考へることなく、ついに戦線に参入すること、病院主に監督を拡大することなども起こる。

地域医療機構も激変競争であり、病院の再編制は戦線の縮小と捉えられかねない。とはいえ、そのあがかりを踏まえていなくてはならぬ。戦時下という特殊環境を構築し、進展ともに市場とともに幸運な成功とインフラが残る。そのような激変競争になくしてはならない。

その4月16日、市内の地域医療圏について市民・消費者等企画「地域医療に関するシンポジウム」これらとりとなる「病院の両面」、統合への開きだした。参加していた市民の方々のなかから、この質問や意見が出たが、急性性医療機関のものとの反対意見はなかったことと安堵している。

今、情勢を発信し続ける、市民と交えた議論を深めつつある。道標は続けられるべきだが、スピード感ある計画推進が必要となるとする。

新任医師の紹介

○お写真はホームページをご覧ください。

放射線科医師 小松 敬昭	循環器内科医師 内田 智之	脳神経外科医師 斎藤 大剛	消化器外科医師 佐藤 哲也
			
画像診断科医員に就任できる方協力いたします。	下関の医療圏に就任できるよう精進しております。よろしく頼みます。	丁寧な診療をお願いします。ようこそご来院ください。	一生懸命働かせていただきます。
臨床研修医 川野 起希	臨床研修医 古賀 加奈子	臨床研修医 木下 智貴	臨床研修医 張 大曉
			
本年より大阪府から派遣にて派遣されることとなりますので、統一研修期間については、統一研修期間とは異なります。よろしく頼みます。	右も左も同じように頑張ります。切磋琢磨しながら学びたいです。よろしくお願いします。	研修開始して少しではありますが多くのことを学ぶことができています。勉強しています。よろしくお願いします。	働く価値的に仕事内容に馴染みながら勉強しています。よろしくお願いします。
臨床研修医 石崎 翠々花	臨床研修医 伊藤 光輝		
			
ここから2年間、心身ともにのびのびと育ちて下関の医療圏に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いします。	常に「学習する姿勢」を忘れず、少しでも早く医療士となりたいです。よろしくお願いします。		

病院統計 令和5年3月

●紹介率	78.5%
●定紹介率	167.5%
●平均在院日数	12.3日
●在宅復帰率	95.1%
●入院取扱患者数(外来)	39件
(入院)	685件
●老人保健施設 入所人数(併用率)	1,642人(73.6%)
通所利用人数数(併用率)	402人(49.4%)
●訪問看護ステーション訪問件数	306件
●健康管理者ネット受診者数	1,517人
●奇兵隊ネット利用件数	29件

老健イベント

6/6 コーヒーの日 ☺
6/14 誕生日会 🎂

下関医療センター公式SNS




LINEからのお知らせ、
 Facebookでもレイン
 付の更新をお知らせ
 します。

▶2023年6月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和5年6月号

糖尿病・内分泌内科のご紹介

◇医師紹介◇
野田 薫 日本内科学会（総合内科専門医）・日本糖尿病学会（専門医・指導医・学術評議員）・日本内分泌学会（暫定専門医）
藤本 留理子 日本内科学会（総合内科専門医）・日本糖尿病学会（専門医）・日本内分泌学会（専門医）

糖尿病および内分泌疾患の診療に必要なスキルを身につけた専門医資格を有する医師が診療いたします。専門分野にとどまらず、患者さんのトータルケアを心がけ、患者さんのライフスタイルに寄り添い、病気をもちたい人を変えない社会生活を送ることを目標に、診療に努めます。

診療対象とする疾患は主に、糖尿病、甲状腺疾患などの内分泌疾患です。糖尿病患者さんは非常に多く、日本人40歳以上の5〜7人に一人の割合で発症しています。また糖尿病と診断された方を100人集めると、そのうち約75人の方が65歳以上ともいわれています（糖尿病患者の約75%が65歳以上）。血糖値が少々高くても、自覚症状がないことが多く、コントロールすることが難しい病気です。

糖尿病治療の目的は、合併症をおこさず、健康な人とかわらない人生を歩くことです。初めて受診された患者さんには、過去の糖尿病歴、遺伝関係を確認しながら、現在の糖尿病の状態、インスリン分泌の有無、合併症の有無を評価して、適切な治療方針を立てます。食事療法が最も重要で、管理栄養士の協力のもと、家族構成や食事摂取状況、仕事内容に配慮した面談を行っています。さらに医療スタッフによるフットケア外来を併設し、腎臓に対する透析予防を行い、血糖管理だけでない患者さんの合併症を予防する体制を整えています。1型糖尿病患者の血糖管理にはインスリン注射だけではなくポンプ療法も外来で導入しています。（裏面へ続く）

フットケア外来 **インスリンポンプ**

内分泌疾患のほとんどが甲状腺疾患で、そのほかに副腎疾患、下垂体疾患などがあります。ホルモン異常は見逃されやすく、治療が遅れると生命を脅かす状態になるため、初期の段階の診断が大事です。当科では手術療法、アイソトープ治療以外のホルモン療法を行っています。寛解に入っても半年から一年以内に再燃することが多く、少なくとも数年は内服治療を継続しなければなりません。副腎疾患、下垂体疾患もホルモン補充療法ですが、患者さんが体調を崩されると、ホルモン補充量を一時的に増量するなど緊急に処置が必要になります。検査値よりも身体症状のほうが判断の指標になることが多く、注意深い観察が必要です。

日本糖尿病学会と内分泌学会の専門医資格をもつ医師が診療し、糖尿病療養指導士資格をもつ看護師が対応し、学会より認定教育施設として登録されています。当科へ通院される皆様には何か得るものがあれば幸いです。

院長からのメッセージ

大学卒業間近のころ、ひとりの同級生が私にぼつりと「水保には、まだ水保病者がたくさんいて、そこは世間あまり知られていないんだ。水保病？小学生のころに学んだ公害病のひとつで、すでに過去の病気ではないのか。ピンと来ない私に、彼は言い足した。「卒後は水保で働くと考えている」。

同級生の名は高岡道君。最近、彼の手による一冊の本「水保病と医学の責任」題されてまたメチル水銀中毒症の真実（大月書店）が上梓された。学生時代の言葉からおよそ40年、有言実行を貫いた信念に感服する。

水保病という大変重たいテーマに、長い間筆を執りつづける道君は想像に難くない。地元のクリニックという場で、患者たちに寄り添い続けた姿勢に、医師としての矜持がうかがえる。

この書は、世間がいかに水保病およびメチル水銀中毒症について知らないかを訴える。多くの水保病患者が、今なお救済されず残っている電話は、医学界と行政の不作為にあるという。当初、地元の医師たちによって水保病の存在と原因は明らかにされた。しかしその後、行政と関わるにつれて、医師たちは遠退し沈黙していく。その経緯は、同じ医師として自戒の念を起させる。

この著作がなければ、多くの事実が永久に世に出ることがなかったかもしれず、わが国の医療行政に残る事実を懐かしむ。同級生だからという真摯な感情では、もちろんない。

病院統計 令和5年4月

●紹介率	83.4%
●逆紹介率	167.1%
●平均在院日数	12.0日
●在宅復帰率	97.1%
●MSM収収患者数(外来)	26件
(入院)	696件
●老人保健施設 入所者延数(利用件)	1,657人(76.7%)
通所利用延数(利用件)	345人(46.6%)
●訪問看護ステーション訪問件数	267件
●健康管理センター受診者数	2,196人
●奇兵隊ネット利用件数	29件

老健イベント
6/14 誕生会
7/5 コーヒーの日
(ショートケーキを添えて)

下関医療センター 公式SNS
LINE QRコード: 病院からのお知らせ、様々な情報を無料でお届けします。
Facebook QRコード: FacebookでもLINEの情報を配信しています。

下関医療センター 2021年報
当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを制作しています。完成いたしましたら、当院の玄関口に一冊前に設置いたします。地域の先生方の診療所・クリニックをぜひ紹介してください。ご依頼の方は soumu@shimonoseki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶2023年7月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和5年7月号

脳神経外科ホットラインの開設

多方面からご要望があった、専門医師に直接相談できるホットラインの開設に取り組みました。準備ができましたので、まずは脳神経外科から運用を開始します。

本紙が届いた時点からご利用いただけます。下記の電話番号におかけいただけますと、脳神経外科の担当医師が必ず直接ご相談ください。

受付時間は、月～金 平日8:30～17:00とします。ご利用いただける方は医師のみいたしますので、電話番号の管理をよろしくお願いいたします。

病診連携を通した予約との使い分けですが、
① 紹介する前に専門医と相談したい場合
② 緊急を要する場合
はホットラインをご利用ください。
尚、ご利用方法は①②に限定するものではありません。

ご連絡をお待ちしております。

下関医療センター地域連携部

下関医療センター 脳神経外科ホットライン
080-9958-4698

院長からのメッセージ

GW明けで5連休後、COVID19が落ち着いたままの時期の医療関連ニュースを埋めたのは、マイナンバーをめぐる問題であった。疑念するトラブルで現場は混乱し、政府は説明に追われた。軽微ではないものの、なかなかデジタル化が進まない。いつか見た光景がコロナ禍にもあった。

コロナ禍では、VRS、HER-SYS、G-MIS、CODONといったデジタルシステムが導入されたが、多くは満足に機能しなかった。デジタルのバネよりも、国民の行動実態と、医療従事者や行政の身体的労働によって乗り切ったのである。デジタルを使いこなせなかった一因が導入時のトラブルへの過剰な反応にあったと思う。

新技術の導入にトラブルはつきもの。バグを気にし過ぎて、足がすくんでいるうちに、システムは防衛していく。作業をこまめに小さな単位で進めればよい。トライ＆エラーでとにかく前に進み、ブラッシュアップし続ける工程こそが大切だ。マイナンバーも同じ。

デジタル技術は、社会インフラが整っていない国に普及しやすいとか。安定した先進国の方が進歩を遂げるというパラドックスもある。デジタルフォレンジックには、ゆるぎなき働きが利便性をもたらしている。

適応は適応能力を高め出す（中公文庫「失敗の本質」より）。過剰な適応は柔軟さとスピードを奪い、その先には日本がしばしば繰り返す、ガラパゴス化がある。マイナンバーを見る目はききすぎず、しなやかに。

下関医療圏地域医療構想に関する講演会

「下関医療圏のさらなる成長のために ～データから見る下関医療圏の現状と課題～」というテーマで、来たる令和5年8月28日（月）に、講師として千歳大学医学部附属病院 副院長 井上 貴裕 先生をお招きし、当院と下関市立市民病院の職員を対象とした講演会を開催いたします。

講演の内容については、また後日ご報告いたします。

お問い合わせ先
下関医療センター 総務企画課
TEL: 083-231-5811 / FAX: 083-223-3077
Email: soumu@shimonoseki.jcho.go.jp

老健イベント
7/14 誕生会
8/18 誕生会
9/3 コーヒーの日
(アイリスを添えて)

病院統計 令和5年5月

●紹介率	76.4%
●逆紹介率	143.1%
●平均在院日数	11.5日
●在宅復帰率	95.9%
●MSM収収患者数(外来)	53件
(入院)	630件
●老人保健施設 入所者延数(利用件)	1,786人(80.0%)
通所利用延数(利用件)	353人(47.7%)
●訪問看護ステーション訪問件数	302件
●健康管理センター受診者数	2,249人
●奇兵隊ネット利用件数	21件

下関医療センター 公式SNS
LINE QRコード: 病院からのお知らせ、様々な情報を無料でお届けします。
Facebook QRコード: FacebookでもLINEの情報を配信しています。

下関医療センター 2021年報
当院ホームページのトップページから、「病院年報・広報誌」をクリックでもご覧いただけます。

地域の先生方と下関医療センターを結ぶプラットフォームを制作しています。完成いたしましたら、当院の玄関口に一冊前に設置いたします。地域の先生方の診療所・クリニックをぜひ紹介してください。ご依頼の方は soumu@shimonoseki.jcho.go.jp までご連絡ください。

▶2023年8月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和5年8月号

MRエラストグラフィ(MRE)のご紹介

本年3月にMRエラストグラフィ(MRE)を導入しましたのでご紹介します。
山口県でのMRE導入は、山口大学医学部附属病院に次いで2台目となります。

肝硬変は、C型肝炎やアルコール性肝炎などが原因の慢性肝疾患です。慢性肝疾患の肝臓内には弱い炎症が継続しており、この炎症が徐々に肝臓の組織に線維化を引き起こします。線維化によって組織が破壊され、硬くなり肝硬変となり進行すると、やがて肝臓は機能なくなり、肝がんとなります。

肝線維化の評価は、一般的に肝生検が行われており、他には超音波診断装置を使用したエラストグラフィがあります。肝生検は、針を刺して組織を採取するため、合併症のリスクがあり繰り返し検査を行うことはできません。超音波エラストグラフィは、侵襲性は少なく繰り返し検査はできますが、肝生検とともに一部の硬さしかわからず、肝臓全体の評価は困難です。

しかし、今回導入したMRエラストグラフィ(MRE)は、非侵襲的で肝臓全体を評価できます。また、放射線被ばくがなく、操作者依存が少なく再現性が高いという特徴があります。MREは、肝硬変や肝がんへの重症化が増えている非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)などの早期からのリスク診断の一助となる可能性があります。

MREの原理は、腹部にパッドドライバと呼ばれる特殊な外部刺激装置を当て、肝臓に振動を与えます。その振動に合わせてMRIを撮像することで、肝臓内を透過する振動波(弾性波)を可視化することができます。物体を透過する振動波の波長と物体の硬さは相関関係にあり、密度を仮定することで物体の硬さを定量的に評価することができます。

以下のような方にメリットがあると考えられますので、ぜひご検討ください。

- 血液検査やエコー検査で肝硬変を疑われたことがある方
- 脂肪肝があり肝硬変に進んでいないか心配な方
- 以前にウイルス性肝炎を治療していた、または現在治療している方
- 肝生検を受けたことがあり経過が気になる方

文責 診療放射線科 安川 浩介

院長からのメッセージ

なかなか消化できない有給休暇をひねり出して向かったのは、7月の琵琶湖周辺。目的地のひとつは長浜市であった。

「霞浦の湖畔集落」は重要文化的景観に指定されている。琵琶湖北端の、険しい山に囲まれた70世帯ほどの小さな集落は実に静かであった。信号機も電車もコンビニもない。湖畔の水音と、ピーヒョロロと鳴く鳥の声を聞きながら散歩した。

この地を有名にしているのは、眼前に広がる琵琶湖と中世の面影が残る景観だけではない。惣村としての歴史的価値である。惣村とは、中世に営まれた自治的・自治的村落共同体のこと。自衛のために部外者の出入りを厳しく監視し、外部との交流を制限する排他的な風土は、近年まで残っていたという。ひっそりとした集落にはそのためかと思うのは、旅行客のうろちずさずののだろうか。

各地にあった惣村の中でも霞浦が貴重なのは、「霞浦文書」という、代々の村長が残した記録が現存しているからである。大切に受け継がれたのは、近隣の太田地区との田地をめぐる200年におよぶ争いが背景にある。産業と資源に乏しい村が争議を戦うには、事実や証拠を正確に記録して示す必要があったというわけだ。

つまりは新証に臨むための資料である。リスク管理や医療事故対策のために、日々の記録をカルテに残すことの大切さは今も変わらない。などと、休暇中にも仕事に思いをさせてしまう悪い性を自覚しながら、帰路についたのであった。

病院統計 令和5年6月

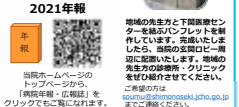
●紹介率	79.8%
●定紹介率	144.2%
●平均在院日数	10.1日
●在宅復帰率	95.5%
●MSW相談患者数(外来)	46件
(入院)	573件
●老人保健施設 入所者延数(利用件)	1,786人(80.8%)
通所利用者延数(利用件)	379人(46.6%)
●訪問看護ステーション訪問件数	272件
●健康管理センター受診者数	2,381人
●奇兵隊ネット利用件数	14件

8/18 8/19 8/20
退任日会 ユービーの日
(ディラミスを添えて)

下関医療センター 公式SNS



下関医療センター 2021年報



院長からのメッセージ

この7月末をもって下関市保健部長が異動し、保健部は新体制に移った。ほぼ2年ごとの恒例行事ではあるが、このたびの人事はいくぶん重い意味を持つ。保健部長がポストは、下関市では長らく厚労省付系医系技官が出身して居たが、それが途絶えることになったのである。本庁で経験者がたくさん出たためらしい。2024年間は官制の世界も別外ではないようだ。

地域医療構想が議論されている下関にとって、本庁とのパイプが断るのはいない。が、歴代保健部長の下で、病院再編は大きな一歩を踏み出したことをひとまず感謝すべきだろう。これからは彼らが残したレールをさらに延伸すべく、後地の我々が汗をかくときだ。

保健部長といえば、あることを思い出す。

ずいぶん前になるが、医系技官でもあるH保健部長と会談したときのこと。さぞかし新聞をよく読み、朝・毎・読・日経といった主要紙は必ず目を通しているのしょうね、と問うたところ、「新聞は読まない」と返ってきた。仰天した。

彼によると、情報は一切情報が貴重なものであり、それが新聞では得られないとのこと。そればかりか新聞はしばしば真実を伝えていないから、ということらしい。

ナマの一次情報が容易に手にはいる環境に官僚たちはいるのだろうか。そうではない我々たちは、情報リテラシーをいっそう磨かなくてはならないだろう。

病院統計 令和5年7月

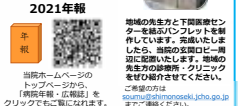
●紹介率	72.9%
●定紹介率	141.6%
●平均在院日数	11.0日
●在宅復帰率	96.4%
●MSW相談患者数(外来)	17件
(入院)	488件
●老人保健施設 入所者延数(利用件)	1,836人(82.3%)
通所利用者延数(利用件)	340人(46.0%)
●訪問看護ステーション訪問件数	288件
●健康管理センター受診者数	2,148人
●奇兵隊ネット利用件数	39件

9/13 敬老会
9/15 ユービーの日
(モンパンを添えて)
※25 誕生日会

下関医療センター 公式SNS



下関医療センター 2021年報



▶2023年9月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和5年9月号

「病院歯科口腔外科」の役割

下関医療センター歯科口腔外科は2016年3月1日より地域歯科診療支援病院歯科(歯科の2次病院・後方支援病院)として運営しております。

地域歯科診療支援病院歯科は「かかりつけ歯科(一般の歯科医院)」と連携して歯科治療を行っています。いわゆる一般的な歯科治療(歯周病、歯蝕、義歯、ブリッジ、インプラントなど)は「かかりつけ歯科」にお願いし、当科は主に口腔外科疾患(骨折、炎症、困難な抜歯、口腔腫瘍、結核疾患など)を担当させていただいております。そして当科でも治療困難な難症難病などは、歯科の3次病院(最後方支援病院)である大学病院の歯科口腔外科に治療をお願いしております。

地域歯科診療支援病院歯科の3大業務は口腔外科、周術期口腔ケア、入院中の患者様の歯科治療(応急処置)です。当科での治療が終わった後は「かかりつけ歯科」で引き続き治療を行っていただいております。

外傷や炎症、口腔内出血など、明らかに口腔外科医の診療が必要な患者様があらましたら、速急なくご紹介ください。ちょっとした口腔内の不具合を相談された場合には、まずは「かかりつけ歯科」受診を勧めただけではまずい。「かかりつけ歯科」で治療で十分な場合が多いからです。「かかりつけ歯科」が必要と判断すれば、病院歯科に紹介していただく段取りになっておりますので何も問題ありません。「かかりつけ歯科」が無いと言われる方に対しては、これを機にご近所に「かかりつけ歯科」を作るようにご指示下さい。

下関市内には歯科医院が150以上あるのに対して、入院・全身麻酔下での口腔外科手術ができる病院歯科口腔外科は4つしかありません。下関医療センター歯科口腔外科は地域歯科診療支援病院歯科の特性を活かし、地域医療に貢献致します。

皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(文責：下関医療センター歯科口腔外科 診療部長 二宮史浩)

院長からのメッセージ

この7月末をもって下関市保健部長が異動し、保健部は新体制に移った。ほぼ2年ごとの恒例行事ではあるが、このたびの人事はいくぶん重い意味を持つ。保健部長がポストは、下関市では長らく厚労省付系医系技官が出身して居たが、それが途絶えることになったのである。本庁で経験者がたくさん出たためらしい。2024年間は官制の世界も別外ではないようだ。

地域医療構想が議論されている下関にとって、本庁とのパイプが断るのはいない。が、歴代保健部長の下で、病院再編は大きな一歩を踏み出したことをひとまず感謝すべきだろう。これからは彼らが残したレールをさらに延伸すべく、後地の我々が汗をかくときだ。

保健部長といえば、あることを思い出す。

ずいぶん前になるが、医系技官でもあるH保健部長と会談したときのこと。さぞかし新聞をよく読み、朝・毎・読・日経といった主要紙は必ず目を通しているのしょうね、と問うたところ、「新聞は読まない」と返ってきた。仰天した。

彼によると、情報は一切情報が貴重なものであり、それが新聞では得られないとのこと。そればかりか新聞はしばしば真実を伝えていないから、ということらしい。

ナマの一次情報が容易に手にはいる環境に官僚たちはいるのだろうか。そうではない我々たちは、情報リテラシーをいっそう磨かなくてはならないだろう。

病院統計 令和5年7月

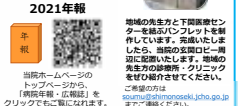
●紹介率	72.9%
●定紹介率	141.6%
●平均在院日数	11.0日
●在宅復帰率	96.4%
●MSW相談患者数(外来)	17件
(入院)	488件
●老人保健施設 入所者延数(利用件)	1,836人(82.3%)
通所利用者延数(利用件)	340人(46.0%)
●訪問看護ステーション訪問件数	288件
●健康管理センター受診者数	2,148人
●奇兵隊ネット利用件数	39件

9/13 敬老会
9/15 ユービーの日
(モンパンを添えて)
※25 誕生日会

下関医療センター 公式SNS



下関医療センター 2021年報



▶2023年10月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和5年10月号

消化器内科ホットラインの開設

脳神経外科に続いて消化器内科もホットラインを開設しました。運用方法は脳神経外科と同じで下記となります。

本紙が届いた時点からご利用いただけます。下記の電話番号におかけいただきますと、消化器内科の担当医師が出ますので直接ご相談ください。

受付時間は月～金の平日8:30～17:00とします。ご利用いただける方は医師のみといたしますので、電話番号の管理をよろしくお願いたします。

皆様のお役に立てますと幸いです。ご連絡をお待ちしております。

病診連携を通した予約との使い分けですが、
① 紹介する前に専門医と相談したい場合
② 緊急を要する場合
はホットラインをご利用ください。
尚、ご利用方法は①②に限定するものではありません。

下関医療センター-地域連携部

下関医療センター
消化器内科ホットライン
080-9951-3360

院長からのメッセージ

下関は住みよい街だ。年間を通じて寒暖差が小さい。海・山・山の幸に欠かず食材にめぐまれてる。新鮮野菜や高遠産物のアクセスがよい。空港へもほど遠くない。おおむね不満はないのだが、個人的には残念なこともある。ジャズ喫茶がないことだ。

山口大学医学部前のジャズ好きにはわかるだろうが、山口にはボサノヴァ、宇部にはボブという老舗のジャズ喫茶がある。うらやましい限りだ。商店とも今も健在なのが救いである。

さる8月某日、湯田温泉・かみ編みプレイスで開催された山口県医師会主催・臨床研修医交流会に出席した。わがと早めに入り、開会までの時間をぬって、ボサノヴァにふらりと寄った。実に久しぶりだ。その日はライブがあるらしく、セッティングをするミュージシャンたちも熱気あふれる。音と食の両方めスベリから流れるサウンドを楽しむ。1時間ほどの至福の時を過ごしてチェックアウト。すっかり白髪となったママは私の顔を覚えていてくれて、帰りに短い会話ができた。

「マスターはお元気ですか。」
「元気です。10年経ちました。」
ああ、それはそうだろう。それだけの時間が過ぎたのだ。ママの達者なお店の永続を願いながら、晩夏のきびしい暑さを引きずる夕日の下で、交流会会場へと向かった。

病院統計 令和5年8月

●紹介率	75.0%
●定紹介率	139.8%
●平均在院日数	11.5日
●在宅復帰率	95.2%
●MSW相談患者数(外来)	35件
●老人保健施設 入所者数(利用率)	1,876人(84.1%)
●通所利用者数(利用率)	377人(46.3%)
●訪問看護ステーション訪問件数	313件
●健康管理センター受診者数	2,393人
●奇兵隊ネット利用件数	30件

10/17 誕生会
10/23 コーヒーの日
(ロールケーキを添えて)

老健イベント

病院公式 YouTube

チャンネル登録、
ご視聴をお願いします！



院長が語る！地域医療構築

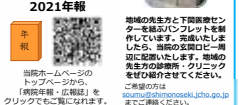
現在下関市では病院再編計画が議論されています。皆様はこの計画をよく理解していただけるよう動画を制作しました。シリーズ化してお届けしますので是非ご覧ください。

※第3回まで公開しています！

下関医療センター 公式SNS



下関医療センター 2021年報



▶2023年11月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
令和5年11月号

地域医療連携検討会を開催しました。

令和5年10月19日に当院内で地域医療連携検討会を開催いたしました。

院外から約40名の方々に御参加いただき、また院内からも多数の参加者があり、盛況のうちに終えることができました。謹んで感謝申し上げます。

地域連携部からは、急性期病院における加算の重要性と新人医師の紹介を行いました。いざさか院向けの内容が多くなってしまいましたが、逆紹介割合という新しい基準ができ、急性期病院では再診患者を減らす必要があることを報告しました。開業医の先生方のサポート無しでは達成できませんので、ご協力のほどよろしくお願申し上げます。

泌尿器科・原宏二医師からは、尿路結石治療と大腸菌ワクチンの治療について話題提供いたしました。体外衝撃波尿路結石破砕術(ESWL)や経尿道的膀胱頸石術(TUL)が当院では可能ですので、是非ご相談ください。

歯科口腔外科・二宮史浩医師からは、主に口腔外科手術について治療実績を報告いたしました。一般的な歯科治療は行っておりませんが、智歯の抜歯術から外傷(骨折を含む)・腫瘍など様々な疾患に対する手術治療を行っております。お困りの際は是非ご紹介ください。

来年こそは、シームレスで大々的に開催したいと思います。

文責 地域連携部部長 田中邦剛

院長からのメッセージ

今日は書評をひとつ。採り上げるのは、高橋幸春著「だれが修復腎移植をつづすのか」(東洋経済新報社)。

慢性腎不全患者に、腎臓の腎臓から取り除いた腎臓(修復腎)を移植する。この治療を長年行っている医師グループが広く知られることになったのは2010年のこと。当時、大論争を呼んだ。この事件をよく覚えているのは、中心的存在の医師・万波誠氏が岡山県出身で山口大学医学部卒という、私の経歴と重なる点が多いことによる。

彼らの修復腎移植によって多くの患者が救われた。しかし、いったん修復腎移植は原則禁止に近い。もっと社会と学会に開かれた形で進められていたら、修復腎移植は違う形で残ったのではと問われる。万波氏の経歴(日本移植学会副理事長)の重なりが、「医師が医師と患者との間で完結できれば、それでいい」という考えもあるが、それが普遍化されてしまえば、閉ざされた医療集団の中で大きなことが起きかねない。移植は医療集団の中だけでは解決できない問題を含んでいる。

万波誠医師、2022年1月10日逝去。享年59。

病院統計 令和5年9月

●紹介率	83.6%
●定紹介率	130.9%
●平均在院日数	11.0日
●在宅復帰率	96.8%
●MSW相談患者数(外来)	29件
●老人保健施設 入所者数(利用率)	1,772人(82.0%)
●通所利用者数(利用率)	356人(48.1%)
●訪問看護ステーション訪問件数	291件
●健康管理センター受診者数	2,481人
●奇兵隊ネット利用件数	26件

11/8 文化祭
11/8～17 1階フロアで文化祭
1/15 誕生会

老健イベント

病院公式 YouTube

チャンネル登録、
ご視聴をお願いします！



院長が語る！地域医療構築

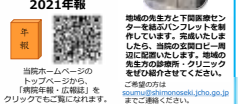
現在下関市では病院再編計画が議論されています。皆様はこの計画をよく理解していただけるよう動画を制作しました。シリーズ化してお届けしますので是非ご覧ください。

※第4回を公開しました！

下関医療センター 公式SNS



下関医療センター 2021年報



▶2023年12月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
 令和5年12月号

**G-CSF製剤の新しいデバイス
 【ジーラスターポディーボッド】について**

発熱性好中球減少症は、殺細胞性の化学療法における重大な課題でした。顆粒球コロニー刺激因子（granulocyte colony-stimulating factor:G-CSF）製剤は1990年代に承認されて以来、より安全でより治療強度を維持した化学療法を施行するにあたり欠くことのできない薬剤となっています。更に、2014年にG-CSFをベク化することで血中濃度半減期を延長させた持続型G-CSF製剤が承認され、がん化学療法の1サイクルごとに1回、体重や体表面積に関わらない固定用量の投与で発熱性好中球減少症の発症を抑えることが期待できるようになっています。

この持続型G-CSF製剤の承認当時の用法用量は「がん化学療法投与終了後の翌日以降、3.6mgを化学療法1サイクルあたり1回皮下投与する。ただし、がん化学療法投与の投与開始14日前から投与終了後24時間以内に本剤を投与した場合の安全性は確立していない」とされていました。この治療前日から終了後24時間という投与禁止期間は、G-CSF製剤によって分化・増殖過程に入った好中球系の前駆細胞が抗薬剤に曝露されることで、重篤な好中球減少を起こしてしまうことを懸念して設けられています。しかし、近年この「14日前」が「10日前」に短縮された為、従来では使用困難であった2週間/1クルのレジメンの化学療法でも使用できるようになっています。

更に、これまでは持続型G-CSF製剤を注射するために化学療法投与終了後24時間以降、概ね翌々日などに来院が必要だったのですが、その来院が不要となる「ポディーボッド」タイプのデバイスが開発されました。このデバイスは、G-CSF製剤が充填された本体と皮下注入する薬剤部からなっており、化学療法後に接着テープで患部の腹部に穿刺・貼付し帰宅していただきます。すると、約27時間後に自動的に薬液が注入開始され、注入は約24分だけ行われますので違和感はありません。そして、投与終了後（患者さんへは取り出し目安日時を予めお知らせしている他、投与終了したかデバイスの表示ランプの変化でわかります）ご自身で取り外して頂き、後に医療機関で廃棄することになります。

裏面へ続く

このデバイスにより、患者さんにとっては化学療法後の来院が1回不要となりますが、制約もあります。装着中の約2日間には入浴やサウナなどデバイスや薬剤部が濡れる行為はできませんし、医療機関においては画像検査（放射線、MRIなど）や手術治療（放射線、磁気治療、マイクロスコープなど）、急変時の電気ショックやAEDなどの使用の妨げになります。もし、このデバイスを装着された方が近隣医療機関に来院され、何らかの処置が必要な際はその緊急性に応じてデバイスを取り外していただくか、検査日をずらしていただく必要があります。判断に迷われる場合やすでに取り外された場合は、化学療法施行中の診療科にご連絡いただくことができます。（化学療法委員会・血液内科 杉山曉子）

院長からのメッセージ

11月、COVID19ワクチン接種の案内が届いた。7回目である。これまでは速やかに接種してきたが、今回は遅らせた。副反応のリスクが顕著に高まったからである。厚労省によると、有害事象報告9137件のうち、ワクチンとの因果関係が認定されたのは4675件（10月16日現在）。中には突然死が含まれ、深部静脈血栓症や心筋炎など恐ろしいものもある。治療法が進歩して死亡率が低下した今、命を賭してまでワクチンで予防する必要があるかと議論したのだ。

副反応で思い起こされるのはHPVワクチンの一件である。有害事象発生は非接種者と差がとれ、最近では接種勧奨の論議に傾いているが、もやもやした感情が残る。大規模調査のエビデンスを信じることもリスクがある。何ん自由なく過ごしていた者が突然生活困難となり、それがワクチン接種後であれば、因果関係も疑いの自然。何か害だ、と感じるセンスを、臨床にたずさる者は磨きかせるべきではない。で、7回目のワクチンをどうしたいと、結局接種した。公的病院長という立場上、接種を推奨するお上の方針に逆らうのもなかなか考えたのが理由である。ワクチン接種の決断も多分に社会的要素が大きくなっているのも、アフターコロナということか。

病院統計 令和5年10月

- 紹介率 81.7%
- 逆紹介率 129.1%
- 平均在院日数 12.3日
- 在宅復帰率 94.6%
- MSW相談患者数（外来） 37件
- （入院） 374件
- 老人保健施設 入所者数（併用率） 1,720人（77.1%）
- 通所利用者数（併用率） 390人（50.2%）
- 訪問看護ステーション訪問数 372件
- 健康増進センター受診者数 2,210人
- 寄居ネットワーク利用件数 37件

下関医療センター 公式SNS

LINE: 病院からのお知らせ、様々な情報を配信してお届けします。

Facebook: FacebookでもLINEの情報を配信しています。

下関医療センター 2021年報

地域の先方と下関医療センターを結ぶ（プラットフォーム）を制作しています。完成いたしました。地域の玄関口に一歩近づくことができます。地域の先方の診療科・クリニックを呼び寄せさせていただきます。ご協力の方向は「関係構築・広域化」をクリックでご覧ください。

▶2024年1月号

JCHO下関医療センター ニュースレター
レインボー通信
 令和6年1月号

診療科のご紹介
 眼科（アイセンター）・歯科口腔外科・消化器内科・血液内科・外科

アイセンター（眼科）

現在、眼科の外来診療は午前中に2～3診体制で行っており、院外からの患者様の紹介に関しては、コロナ禍以降の診療体制を踏まえての完全予約制となりました。手術については、特に白内障手術や網膜・硝子体手術を積極的に施行しており、年々手術件数も増加しています。今後ともよろしくお願ひいたします。（文責 布佳久）

歯科口腔外科

歯科口腔外科は歯科の2次病院として地域医療に貢献させていただいています。一般的な歯科治療（虫歯、歯周病、歯肉、かぶせもの、インプラントなど）は、お近くの歯科医院にお願いし、当科は主に全身麻酔下での口腔外科手術など、歯科医院では困難な症例を対象に診療を行っています。（文責 二宮 史浩）

消化器内科

消化器内科は4人体制で、消化器疾患の急患にいつでも対応いたします。肝疾患のマネジメントやボリペック、EMR、ESD、PEG、ステント留置などの内視鏡治療を得意としています。（文責 飯田 武）

血液内科

血液内科は、専門医2人体制で、血液疾患全般の専門的治療を行います。白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫といった悪性腫瘍の化学療法をはじめとして、ガイドラインに準拠した幅広い治療に対応可能です。適切な治療を地元で受けていただけるよう努めてまいります。是非ご相談ください。（文責 岡田 涼平）

外科

消化器外科、腹腔鏡手術にとどまらず、化学療法、緩和ケア、救急医療を行います。原則対応いたします。併存症が多くなるも医療応答に積極的に手術対応もしています。お気軽にご相談ください。（文責 西村 拓）

院長からのメッセージ

デジタルトランスフォーメーションは昨今のトレンドだが、これによって現出する世界はどのようなものだろう。デジタル空間とは、時間と空間を縮短・変換する場だと思ふ。これは、つまりワープのようなものである。3次元空間を曲げて縮小させ、瞬間的に目的地に到達する、SFに登場するあのテクノロジー。

ワープのイメージとしては、スタートレックやスターウォーズの中の映像が浮かぶ。まわりの星々の光が線に伸びて、そのトンネルの中を一瞬に移動する。映画の中では唸る音が上がるが、実際にはそんなものではないだろう。3次元の存在である人間が時空のゆがみに耐えられるはずがない。

コロナ禍で人生が滞ったために、会議や会合のデジタル化、Web化が一気に普及した。便利なツールであり、仕事や生活の効率化に活用しているが、それを認識した今、実感することがある。人と人が直接接点で触れあうことは、捨てがたい価値があるということだ。

コロナ5期移行後の昨年、地域連携交流会や委員会など、対面式の交流を少しずつ再開した。やってみて、やはり良かったと思う。コミュニケーションの成立と深化には、一定の時間と空間が必要であることがよくわかった。人間の個性は、ワープに適用するようにはできていないようだ。

2024年はアナログの交流の場をさらにふやしていく計画なので、ご期待を。まずは、謹賀新年。

医師の異動のお知らせ

- 耳鼻咽喉科医師 松浦 貴文（12/15退職） 在職中は大家お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。
- 耳鼻咽喉科医師 竹中 裕紀（12/16採用） ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

病院統計 令和5年11月

- 紹介率 85.2%
- 逆紹介率 134.0%
- 平均在院日数 11.3日
- 在宅復帰率 95.8%
- MSW相談患者数（外来） 37件
- （入院） 380件
- 老人保健施設 入所者数（併用率） 1,572人（72.8%）
- 通所利用者数（併用率） 391人（52.8%）
- 訪問看護ステーション訪問数 351件
- 健康増進センター受診者数 2,007人
- 寄居ネットワーク利用件数 25件

下関医療センター 公式SNS

LINE: 病院からのお知らせ、様々な情報を配信してお届けします。

Facebook: FacebookでもLINEの情報を配信しています。

下関医療センター 2021年報

地域の先方と下関医療センターを結ぶ（プラットフォーム）を制作しています。完成いたしました。地域の玄関口に一歩近づくことができます。地域の先方の診療科・クリニックを呼び寄せさせていただきます。ご協力の方向は「関係構築・広域化」をクリックでご覧ください。

▶2024年2月号



JCHO下関医療センター ニュースレター

レインボウ通信

令和6年2月号

かかりつけ患者の「もしもの時」を支えます。

当院にあらかじめ御登録いただきますと、その患者が急変した際には24時間365日いつでも対応する、というシステムを導入しています。今までその対象を在宅療養中の患者に限定していましたが、貴院がかかりつけの患者すべてに拡大いたします。

登録は患者ごとにも必要です。同封の「在宅療養後方支援病院 登録希望申請書」に必要事項をご記入の上、当院にFAXしてください。積極的な治療を希望・心臓蘇生は希望しない等の情報があるとありがたいです。当院での主治医が決まったことを貴院にご報告した時点で運用開始となります。登録の際に患者本人が受診する必要はありません。

緊急受診される際には、登録患者であることを当院に知らせよう、本人やその家族にお伝えください。入院された際には貴院にその旨をお伝えします。後日で結構ですがで情報提供書を頂けると幸いです（紹介書アップにご協力ください）。退院後はそのご加療をよろしくお願い致します。

手術を中心とした急性期医療を頑張りたいと思います（こちらの対象患者も是非ご紹介くださいが）、地域医療を支援する病院も目指します。

（文責 地域連携部部長 田中邦剛）

下関医療センター

かかりつけ医

①患者さんの情報を事前に登録

②もしもの時の診療と入院を約束



院長からのメッセージ

下関市医師会の仕事で原順に行く機会を得た。インドア派でビーチリゾートに興味のない私にとって、沖縄は遠く離れた土地であり、これが最後の訪問となるはずだった。

多くの元同僚が休暇に春を込めて、これからは春の足音を聞きながら、沖縄の美しい自然を堪能することにした。タクティクス選手が驚きのまま、数分アプタラガマ、沖縄県平和祈念資料館、めゆり平和祈念資料館、旧海軍司令部跡の4か所を回った。

戦争というものは、いったん火ぶたが切られてしまえば止まることはなく、やがて戦地は混乱のたもととなり平和には向かえない。だから今も多くの命が犠牲になる軍軍を断罪する、とは考えない、しかしながら、

戦争というのは、いったん火ぶたが切られてしまえば止まることはなく、やがて戦地は混乱のたもととなり平和には向かえない。だから今も多くの命が犠牲になる軍軍を断罪する、とは考えない、しかしながら、

戦争というのは、いったん火ぶたが切られてしまえば止まることはなく、やがて戦地は混乱のたもととなり平和には向かえない。だから今も多くの命が犠牲になる軍軍を断罪する、とは考えない、しかしながら、

病院統計 令和5年12月

●総患者	85.2%
●逆転合併	148.4%
●平均在院日数	11.9日
●在宅復帰率	97.0%
●NHS/患者満足度(外注)	25.0%
(入院)	411件
●老人保健施設 入所者数(利用率)	1,614人(72.3%)
通所リハビリ施設(利用率)	356人(50.6%)
●訪問看護ステーション訪問件数	340件
●健康増進センター受診者数	2,045人
●専任スタッフ利用率	22件

老健イベント

2/8 コーヒーの日
 2/26 (カヲラナーを添えて)
 誕生日会

病院公式 YouTube

チャンネル登録
 ご視聴お願いします！

院長が語る！ 地域医療構想

現在「関市」では病院医療計画が議論されています。特にこの計画を「関市」で実施するためには、多くの課題があります。この計画を「関市」で実施するためには、多くの課題があります。この計画を「関市」で実施するためには、多くの課題があります。

＊第4回まで公開中！

下関医療センター 公式SNS

LINE
 病院からのお知らせ、検査・治療の最新情報をお届けします。

Facebook
 Facebookでもイベントの告知や配信しています。

下関医療センター 2022年報

地域の先住民と下関医療センターを結ぶ「下関市」を制作しています。完成した2022年報、地域の先住民と下関医療センターを結ぶ「下関市」を制作しています。完成した2022年報、地域の先住民と下関医療センターを結ぶ「下関市」を制作しています。

当ホームページのトップページから「年報」をクリックしてください。

▶2024年3月号

JCHO 千葉医療センター コーポレート

レインボー通信

令和6年3月号

脳動脈瘤治療について

従来脳動脈瘤治療

脳動脈瘤（図1）は成人の半数（女性>男性）に存在し、通常破裂して穴を開け出血をきたし発症することが多く、破裂して2〜8分で3分の1の方が亡くなります。3分の1の方が後遺症をきたす可能性があり、そのうち約1割の方が、その後遺症によって重度障害をきたす可能性を切望しています。

脳動脈瘤の治療は、長らく開頭が標準的治療でしたが、1990年代に血管内治療（血管内）や手術療法で10代などの若年患者で、脳動脈瘤が急激に発症しました。2002年の論文で、破裂脳動脈瘤に対する11例の治療成績は、クリップよりコイルの方が優れていることが示された。以降、破裂性脳動脈瘤内服手術が行われてきました。当院でも昨年よりコイル手術が34例、開頭クリッピング術が10例でコイルの手術が3例でした。

(図1)

(図2)

(図3)

コイル手術は、脳動脈瘤にコイルを挿入し、血液が流れこまずにコイルを高く詰めることが重要ですが、しかし、特に1ミリ以下の脳動脈瘤（広範囲）や血管壁が10代などの若年患者で、バルーンカテーテルを使用し行われるようになりませんが、このような欠点もあり、特に大動脈では治療後の高死亡率に発生することが指摘されてきました。

フローダイバータの登場

そこで登場したのが、フローダイバータ（FD）です。FDはシステム2の網目を開くことで、母血管にFDを留置するだけで、血管内への血液流入を防止し、自然な血液の流動を促すという画期的な治療です。2018年になって、開頭でもFD治療が認められ、2015年にも承認も条件付き（最大径10mm以内の脳動脈瘤破裂および脳動脈瘤手術）で輸入されました。その後、2020年以降に「最大径5mm以内の脳動脈瘤破裂から脳出血と脳梗塞の予防」に承認されました。

(図4)

フローダイバータ治療の適応と注意点

1. 長所、短所、禁忌（治療の予め注意）が必須になります。
完全閉塞によるFDおよび出血性脳梗塞のリスクがあります。出血を生じます。そのまゝにしておくか動脈が閉塞してしまうか、それと完全閉塞（出血）を避けるに注意する必要があります。完全閉塞を避けること、さらに出血を避けることが重要でFD治療になります。FD留置後、低血圧以下（平均収縮圧以下）の発症を避けていただきます。そのため、破綻し出血の危険のある血管や、手術中の脳血管、中断して脳動脈瘤が癒えることが予想されます。
2. 完全閉塞によるリスクが20〜25%程度あります。
特に高齢者には完全閉塞の発症のリスクがあります。完全閉塞を避けるも、多くは縮小し破裂はしないといえますが、数回手術が必要になります。その際、さらに閉塞にFDを留置するが母血管と縮小し、バイパス術を要することがあります。また、特に大動脈が閉塞する際に、破裂し、穴を開け出血を生じる必要があります。そのため、破綻リスクが最も少ない部位は、大動脈以外の脳動脈瘤に、コイル治療を希望することがあります。
3. 向いていない場合についてはあります。
脳動脈瘤が血管質の多い血管に存在し、FD留置しても完全閉塞を期しつづける場合があります。前述の通り、FD後に大動脈大動脈大動脈の手術が必要になる。従って通常のFD留置とコイル留置とコイル留置とコイル留置が適している場合も少なく、血管質の多い大動脈にコイル留置する場合には向いていません。FDの留置は5mm以内で、それ未満のFD留置であれば、破綻性出血の危険は低減されます。

FD、コイル手術、開頭手術、いずれも良い点と悪い点があります。向き不向きがあります。それぞれの脳動脈瘤に合った治療法を検討し、ご提案いたします。

(文責：脳神経内科 大下 雅)

院長からのメッセージ

私が院長に就任した2018年からお届けしてきたメッセージは、今回が最後となる。レインボウ通感を少しでも私たちがもって取っていただけたら、医療従事者を読者に想定して、あれやこれやと執筆してきた。お楽しみいただけたらなと思う。

この3月をもって院長を退職する。突然の決定に、当院医科内科常勤医の山口大孝先生からの派遣打ち切りに伴う病院内退院の原因にある。これを後悔し、下関の医療を守るためには、私が首を引くことが最善と判断させていただいた。

4月から大下天昇、脳神経外科部長が院長代行を務めるので、ご指導ご鞭撻と温かいサポートを、みなさまにはお願いしている次第である。

心算りは病院再開のこと。

本報では過去2回（2021年4月と2023年4月）、アメリカ・ナババレーのスーパーブルームになぞらえて、病院総会の意見発表も大々的。在任の期間がながわね、病院の未来がどうなるか、変わらないうたがききた。

また、スーパーブルームには接近できない。当院を離れるのも見守ることもある。美しい花々が下関の大地にいついそぎ咲き誇る光景を、いつの日か拝みることができることができると信じている。

すべてがそろそろどうまよきにはいかないみたい

夜空のむこうには　もう明日が待っている

6年間のご愛読ありがとうございます。

病院統計 令和6年1月

●総合計	91.7%
●急病科計	149.7%
●平均在院日数	14.7日
●在宅復帰率	
●ICM利用患者数（外泊）	34件
●ICM利用患者数（入院）	477件
●老人保健施設 入所者数（利用率）	1,375人（61.6%）
●通所利用者数（利用率）	327人（49.1%）
●医療相談ステーション訪問数	343件
●医療管理センター受診者数	2,006人
●赤井線ネット利用件数	22件



3/15 誕生日会
コービーの日
(ショットケーキを添えて)

病院公式 YouTube

チャンネル登録、
ご視聴をお願いいたします！




院長が語る！地域医療構想

現在下関市では病院再編計画が議論されています。皆様にごこの計画をよくご理解していただけるよう動画を作成しました。是非ご覧ください。

下関医療センター 公式SNS



LINE

病室からのお知らせ、
検査・診療のスケジュール
をお知らせします。



Facebook

Facebookでもイベント
の告知や配信しています。

下関医療センター 2022年報

全報

当院ホームページから、
「下関医療センター 2022年報」を
クリックするとご覧いただけます。



地域の先生活と下関医療センターを結ぶ絆の1年を制作しています。表紙には、当院の医療従事者と患者の笑顔が並び、地域の先生活と下関医療センターの絆が感じられます。クリニクス賞を受賞しています。

ご購読の方
soumutsu@shimane-riho.co.jp
 までご連絡ください。

7

職員名簿

役職職員名簿

氏名	役職
山下 智省	院長
森永 俊彦	副院長
加藤 彰	副院長
大下 昇	統括診療部長
森田 克彦	総合診療科部長
飯田 武	消化器内科部長
松田 崇史	消化器内科部長
原田 耕志	循環器内科部長
野田 薫	糖尿病内分泌内科部長
縄田 涼平	血液内科部長
杉山 暁子	血液内科部長
西村 拓	消化器外科部長
蘓村 秀明	消化器外科部長
定永 浩	脳神経外科部長
志摩 秀広	脳神経外科部長
赤松 洋子	皮膚科部長
山口 史朗	泌尿器科部長
布 佳久	眼科部長
田中 邦剛	耳鼻咽喉科部長
佐々木克巳	放射線科部長
小松 徹郎	放射線科部長
二宮 史浩	歯科口腔外科部長
瀬戸口美保子	病理診断科部長
得津 裕俊	麻酔科部長

氏名	役職
吉国 健司	薬剤部長
清木 雅一	臨床検査技師長
安川 浩介	診療放射線技師長
壬生 拓也	作業療法士長
渡邊 孝幸	臨床工学技士長
古賀美砂紀	看護部長
松隈真紀子	副看護部長
石丸 弘子	看護師長
藤井須磨子	看護師長
吉村 和美	看護師長
香井 紀子	看護師長
石本 知子	看護師長
内藤 智子	看護師長
川本亜紀子	看護師長
垣本 希	看護師長
山本多加世	看護師長
礪本 恵子	看護師長
日高ひとみ	看護師長
小池千也子	看護師長
有村 和則	看護師長
松原 大作	事務部長
山脇 淳	総務企画課長
青柳 法謹	経理課長
吉岡 禎三	医事課長